OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	看護職に求められる情報活用能力と教育の現状と課題
Author(s)	有馬, 志津子
Citation	サイバーメディア・フォーラム. 2006, 7, p. 40-41
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/70228
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

看護職に求められる情報活用能力と教育の現状と課題

有馬 志津子（大学院医学系研究科 保健学専攻）

1.看護職に対する時代の要請と教育

医療の高度化、氾濫する健康情報、患者や住民のヘルスニーズの多様化に伴い、看護教育機関に対し、看護実践能力（患者の状況を適格に把握・分析し、適切な看護を実践できる能力）を備えた看護職の人材育成が求められています。そのため人権を尊重し人々の価値観や習慣、信念に配慮したケアを提供できるよう、ケアへのアクセスの根底である人権および公平、公正、連帯やプライバシーと秘密保持の考え方、情報収集、分析、伝達できる能力の育成は重要な課題です。

2.看護学生への情報活用基礎の授業目的、内容と方法

当専攻では情報活用能力の育成に向けて、1年次に情報活用基礎、2年次に看護情報学で基礎能力を学び、その後専門科目や臨地実習、特別研究で応用させていきます。本授業はその基本授業に位置します。詳細は下記のとおりです。

目　　的：情報の収集・整理・分析・伝達に関する基本的な技術を習得する

対　　象：看護学1年生80名

教 育 者：教員4名とTA4名

評価方法：提出された課題に対し、一定の評価基準に沿って教員が評価する

学習目標	内容・方法	媒体	授業時間
ネットワークマナーの重要性を理解できる	・ネットワークマナーについての講義とレポート作成	パソコン	30 分
日本語入力ができる	・文章作成ソフトの講義と演習	パソコン	60 分
E-mail ができる	・電子メールソフトの講義と自己紹介とネチケットのレポート課題を教員にメールで送付	パソコン	60 分
internet を利用して必要な情報が検索できる	・情報検索方法に関する講義・個別に与えられた医療や看護に関するテーマについて情報収集	パソコン	90 分
データを集計しグラフ化できる	・表計算ソフトの講義と演習	パソコン	180 分
HP を作成できる	・ホームページ作成ソフトの講義と演習	パソコン	270 分
プレゼンテーション用資料を作成できる	・図形描画ソフトの講義と演習・プレゼンテーションソフトの講義と演習 ・TA によるプレゼンテーション ・看護に関する与えられたテーマに関する情報を分析し、図やグラフを使い、プレゼンテーション用の資料を作成して提出	パソコン TA が作成したプレゼンテーション	660 分

3.授業による看護学生の情報活用能力の向上

授業前後の比較を行ってはいませんが、授業後の課題評価では、ほとんどの学生が情報収集・分析・伝達に関する方法論は習得していると考えられます。これは教員HPに授業用HPを作成しどこからでもアクセスできることにより教育内容や課題を十分理解できるようなシステムを組んでいること、講義と演習を組み合わせる授業方法、個別能力の差に対応できるような教育者の配置、授業HPに学生HPへのリンクがあることから他学生が学生HPにはられた課題を閲覧できることによるグループ学習効果が考えられます。しかし、与えられたテーマに関する医学的な根拠のある情報収集、出典の明記、グラフ作成にあたりデータ所在の明記、グラフの選び方、タイトルや値の表示、プレゼンテーション資料（10枚以内）での流れ（起承転結）やまとめなどに関する能力には不十分さが感じられます。またHPからそのままコピーして資料を作成し、内容について何も吟味していない、課題の提出はあったが授業の出席点はつけていないので作成者の不明確など、教育内容や方法、評価に課題が残されています。

4.今後の看護職の情報活用能力の育成にむけて

文部科学省では情報化への対応として情報活用能力の育成を重要とし、小中高の総合学習でPCやインターネットの活用、中高教育において情報に関する教科の必修、授業におけるプレゼンテーションやインターネット検索の利用などを推進しています。看護学生に聞いたところ､高校までにインターネット、表計算、プレゼンテーション資料作成の経験者も多かったです。今後大学における看護学生への情報活用能力の育成には、情報収集・分析・伝達の方法論も必要ですが、より看護の現場に即した事例設定やテーマ選択、グループ学習、学生相互評価などを取り入れ教育効果を検討することが必要だと思います。さらに、現任看護職の多くは十分な教育をうけていないまま、電子カルテ化、患者情報管理、病院情報システム化などに対応している現状です。また国外のような看護職への遠隔地教育のシステムづくりはわが国では遅れています。現任看護職への情報活用能力の向上への支援や社会人への教育支援も大学としての果すべき役割であると考えます。